

JAAM認定アセットマネージャー（JCAM）資格の構築と支援

（一社）日本アセットマネジメント協会（JAAM）	正会員	戸谷 有一（JAAM教育研修委員長）
（一社）日本アセットマネジメント協会	正会員	竹末 直樹（JAAM国際委員長）
（大）東北大学	正会員	水谷大二郎（JAAM試験小委員長）
（株）オリエンタルコンサルタンツ	正会員	猪爪 一良（JAAMインフラマネジメント実践小委員会）

JAAM（一般社団法人アセットマネジメント協会）について

設立年月 2017年5月

会長 小林 潔司（京都大学名誉教授、同経営管理大学院特任教授）

設立目的 我が国におけるアセットマネジメントの普及、発展

設立の背景 2017年8月 JIS Q 55000シリーズ制定
(主務官庁：国交省、経産省)

- ・インフラの老朽化の進展
- ・インフラマネジメントを担う人材不足
- ・アセットマネジメントの推進に向けた産官学連携の必要性

会員構成 法人会員 103社
法人準会員 239組織（地方公共団体等）
個人会員 107名
(449組織・人)

詳しくはJAAM、HPをご覧ください。

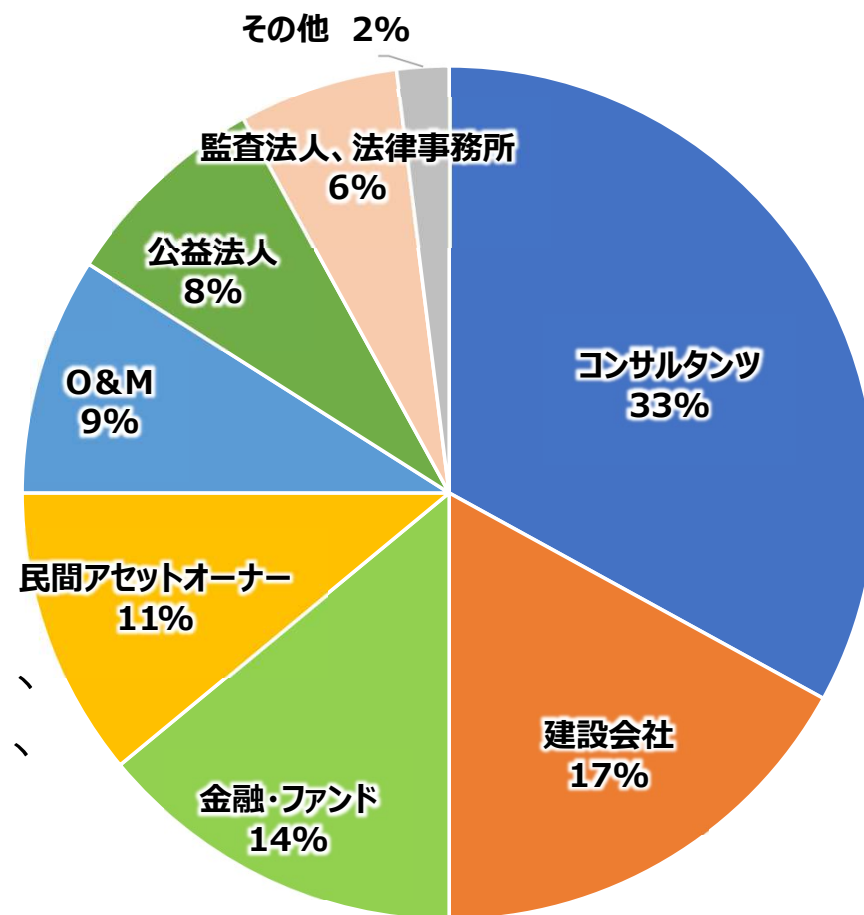
<https://www.ja-am.or.jp>



JAAMの法人正会員の構成（103社）

法人正会員103社のうち、
建設コンサルタンツが33%
建設会社17%、
両者で50%を占めている。

金融・ファンド（14%）
アセットオーナー：有料道路・太陽光発電等（11%）、
オペレーション&メンテナンス（O&M）（9%）、
監査法人・法律事務所（6%）
などが法人会員が50%を占めている。

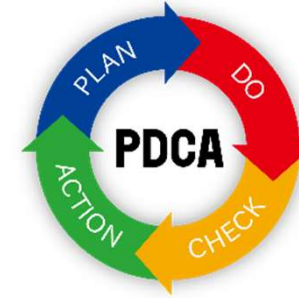


「つくる時代」から「守り、育てる時代」に！リカレント教育の必要な時代

視点	「つくる時代」：これまでの建設の時代	「守り、育てる時代」：アセットから価値を生み出す時代
業務内容	調査・設計・施工	パトロール・点検・診断、維持管理計画・長寿命化計画策定 包括委託・PPP/PFIなど民間活用を視野 →ライフサイクルマネジメント
業務のリスクの範囲と対応	「発注者」と「受注者」の間で概ね業務が遂行でき、両者の間でリスクを解決。	近接してインフラを利用するなかでの作業、業務のため、常に、第三者被害等のリスクに直面。
コストの管理	概ね定められた予算の範囲内でコストを管理（コストが概ね所与）	予防保全措置などを講じ、ライフサイクルコストを縮減し、予算が平準するよう、投資規模を決定し、コスト管理 →「コストとリスクとパフォーマンス」のバランスを追及
マネジメントに必要な情報	技術基準 共通仕様書 学術図書（論文、書籍） 過去の施工実績図書	左記に加え、 モニタリング（パトロール・点検）、点検等データベース アセット台帳、市民等からの情報（苦情、要望） インフラメンテナンスに関する最新情報 →ICT、DX、AI、IoT等を活用した情報アセット
エンジニアの人材育成の視点	入札・契約プロセス 監督・検査・検収プロセス 対象とするアセット（インフラ）に関する技術 ※OJT型が中心で育成	左記に加え、 ライフサイクルにわたる、アセットマネジメント能力 データベースの活用、DXなどデジタル対応能力 ※OJT型だけでは習得が難しい→リカレント教育が必要

ISO 55001の規格要求事項の構成

アセットマネジメント（asset management）
アセットからの価値を実現化する組織の調整された活動



汽車（組織）は
動力源がないと走れない
⇒PDCAをまわせない



JAAMの取り組み事例

■セミナー、フォーラムの実施

JAAMでは、「水曜日はJAAM！」を合言葉に、アセットマネジメントシステムの導入方法、アセットマネジメントを巡る新事業の展開などをテーマに、毎週水曜日にオンラインなどを活用してセミナー、フォーラムを実施。

■資格試験の実施

JAAMでは、アセットマネジメントに関する経験と知識を有した人材がインフラマネジメントの分野の業務・活動で、評価され、貢献し、活躍の場が拡大するよう、資格試験を実施。

資格取得後も時代の変化に対応できる継続教育体制（CPD）を整備。

国際的なAM教育機関であるWPiAMとの連携した試験制度になっているところが特徴。



JAAMが実施する資格試験

■国内外で活躍する人材に対する資格

アセットマネジメントの国際的な人材育成機関であるWPIAM（**World Partners in Asset Management**）と連携し、認定アセットマネージャー国際検定試験（**Certified Asset Management Assessor**）を実施。

CAMA	ISO 55000シリーズを基盤としたアセットマネジメントに関する国際的に通用する知識を有し、AM活動を評価することができる人材を認定（ Certified Asset Management Assessor ）
CPAM	専門分野が明確で、国際的に活躍できるプロジェクトマネージャー級のアセットマネージャーを認定（ Certified Practitioner in Asset Management ）
CSAM	複数分野のAM力量、実績が明確であり、国内外でアセットマネジメントに関する指導的立場にあるアセットマネージャーを認定（ Certified Senior Principal in Asset Management ）

■国内で活躍する人材に対する資格

JCAM	ISO 55000シリーズを基盤として、日本国内のインフラの状況等を踏まえて有効なAM活動を実践できるアセットマネージャーを認定（ JAAM Certified Asset Manager ）
JCAM-a	CAMA、JCAM等の国内アセットマネージャーを補佐することができる人材を認定（ JAAM Certified Asset Manager-assistant ）
JCAM-s	JCAMの資格を取得し、専門分野に関する優れた知識、経験を有し、責任ある立場でアセットマネジメントを実践できる人材を認定（ JAAM Certified Asset Manager-specialist ）

JAAM(WPiAM連携)資格試験制度体系図

AM経験に関する時間軸

AM経験 2年程度

AM経験 7年程度～

AM経験15～20年以上

アセットマネジメントの力量・役割

AMの基礎知識

JCAM-A(JAAM)

AMの国際標準の知識

CAMA (WPiAM)

AMの実務に必要な知識
AMの有効な実績

JCAM (JAAM)

+ 特定専門分野とその実績

JCAM-S (JAAM)

JCAM-S + CAMA(国際的視座)

CPAM (WPiAM)

CPAM + 指導的立場の実績

CSAM (WPiAM)

